ことば・国語部会

部会長：附属小学校　　廣瀬修也
部会員：附属小学校　　岡田博元・佐久山有美・前原文江
　　附属中学校　　市川千恵美・宗我部義則
　　附属高等学校　今成智美・植田敦子・畠山俊

2022 年度活動報告：

附属高校　植田敦子

事例１　**高校１年生「言語文化」での学習課題**

今年度から高校１年生で言語文化の授業が始まり、観点別評価も本格化した。教材への理解や単元への学びが深まる課題を意図して以下のような課題を用意した（主に単元ごとに課題を課したが、今回は主なものを紹介する）。提出された課題については、主に「主体的に学習に取り組む態度」の評価に加えた。生徒に返却する際、提出物にＡ、Ｂ、Ｃの評価を記入するという形を取り、Ａの評価をつけたものについては、いくつか選んで生徒に共有し、Ａの理由を説明した。

古文分野『児のそら寝』・僧たちがなぜ笑ったのか、自分の考えを記す。
・（授業を終えた時点での）よくわからないところ、疑問・感想等を記す。
『絵仏師良秀』・「仏だに～百千の家も出で来なむ」とはどういう事を言っているかまとめる。
・良秀のあり方についてどう思うか、考えを記す。
・（授業を終えた時点の）疑問、わからないところを記す。
『伊勢物語』「筒井筒」
・『大和物語』「沖つ白波」を読み比べ、違いを整理した上で、両作品の印象の違いを考える。…（1）

漢文分野
『論語』　・孔子や弟子にまつわるエピソードを調べてまとめる。
『臥薪嘗胆』　・人物関係図を作成する。
・登場人物のその後について調べる。…（2）

小説分野

『羅生門』　・初読の感想、疑問点を記す。
・原典と読み比べをして、芥川龍之介が描きたかったものは何か考える。
『城の崎にて』を学習後、志賀直哉について興味を持ったことを調べる。

古文分野では、最初は古文への抵抗をなくすことを意図して、生徒に授業後もわからないところがあれば、積極的に質問するよう促した。（１）の読み比べの活動は、2022 年度の公開教育研究会でも紹介した。詳細は 2022 年度の研究紀要に掲載する予定である。

漢文分野では、本文の読解が終わった後、漢文を身近に感じてもらうことを意図して、興味があることを自ら調べる課題を課した。（２）は、人物関係を整理することで、多くの登場人物の関係とストーリーを確認することにつながった。人物を国ごとに列挙するだけでなく、人物関係図を作成できたものをＡ評価とした。「登場人物のその後について調べる」という課題は、従来教員が説明することの多かった越の范蠡や種や呉の伯嚭などについて自ら調べていくことで、漢文そのものへの興味が増すことをねらいとしている。

小説分野は、「羅生門」と「城の崎にて」の２作品を扱った。「羅生門」は、授業内で原典である古典作品との読み比べ活動を行った。「城の崎にて」は、授業では生徒の疑問点を中心に授業を展開し、読解後に志賀が最初に発表した「いのち」という短編と読み比べる活動も行った。生徒は、暗夜行路を読んだ生徒もいれば、まだ作者の作品になじみがなく、本文が難しく感じるという段階の生徒もいた。生徒の興味・関心に幅がありそうだという前提のもと、課題を「志賀直哉に関すること」という大きなものに設定した。さまざまな取り組みがあり評価が難しいところではあるが、自分でテーマを設定し、主体的に、かつ意欲的に調べているとこちらが判断できるものをＡとした。以下は、７月の連携研で発表した際に紹介した生徒の提出物（（１）（２）のみ）を紹介する。

言語文化

『伊勢物語』『筒井筒』と『大和物語』『叶つ自根』の作風や内容の違いについてまとめよう。

組　名前

A

〈筒井筒〉
- 時の流れを感じる
- ノンフィクション
- 大和の女と河内の女の中立的な立場
- 短歌中心に話が進む
- 遠まわし→相手を気遣う
- 表現→明るい印象
- 男が悪い
- ふわっとして奥ゆかしい（大和の女）
- 範囲広い

河内の女にも同情

〈大和物語〉
叶つ自根
- 詳しい
- 心情描写多い→現代の人に分かりやすい
- 重厚感情、ストレート（恨み怒り）
- 河内の女が悪い
- 自殺が強い
- 妻の味方
- 今の話（一時）
- 話意点を絞っている

壮絶な物語

上流階級目線

言語文化

『伊勢物語』『筒井筒』と『大和物語』『叶つ自根』の違いを整理しよう。

組　名前

A

〈筒井筒〉
- 河内の女が、男に思いを伝えるような歌を詠んでいる。
- 男→下級地方官
- 大和の女の家柄の描写なし
- 歌が多い
- 男が大和の女の前に正体を現していない。（歌のとき）
- 大和の女→男の浮気を知っているのか不明

〈大和物語〉
叶つ自根
- 男と女の心情がくわしい
- 大和の女の歌を聞いた後のことが描かれている。（歌を聞にあてると遊
- 男は王族だった。
- 大和の女の家柄開陳
- 召し使いを前で歌を詠んだ
- 大和の女→嫉妬心が描写されている。
- 分かりやすく表現が多い→浮気相手の気持ち少な

言語文化

『伊勢物語』『筒井筒』と『大和物語』『叶つ自根』の違いを整理しよう。

組　名前

A

〈筒井筒〉
- 適確な描写が少ないかわりに詩が多いので趣がある
- 事実を淡々と書いてある（心情の変化の描写が少ない）
- 切ない感じ
- 話の範囲が狭い
- 男がメインで、それを取り合う二人の女の物語なかんじ
- 遠まわしな表現から、相手を気遣う言葉
- 男が悪いという印象を持つ書き方
- 表現→明るい印象
- ストーリー性、時の流れ
- 大和の女、奥ゆかしいイメージ

〈大和物語〉
叶つ自根
- 主人公たち二人がメイン→河内の女は脇役感がある。
- 男の浮気のしょうがない感がある→「かわいい」「お酒になる」というフィクション、比喩として使われている
- 重厚感情、ストレートな表現（恨み怒り）
- 心情描写わかりやすい→現代人も理解しやすい、壮絶な話だ。女がかわいい
- 河内の女が悪い印象を持つ
- 大和の女、自殺が強い（お酒になる）
- 大和の女、奥ゆかしいイメージ
- 男が王族
- 上流階級目線→男が主者・隠れていることがバレる（ばだす）
- 河内の女の記述がこまかい、女への愛
- 私が推測する話意味

(2)

臥薪嘗胆1

組　番　名前

一、登場人物を整理してみよう

呉 ⑫闔廬 → ⑬夫差（呉王）
⑭伍奢 → ⑮子胥（長官に仕える）
⑯人（夫差の召使いなど）
伯嚭（宰相）
一員の人たち

越 ⑰句践（越王）⑱句践の妻
⑲句践の残兵
⑳范蠡（越の功臣）、種（越の功臣）

二、それぞれの人物のその後について調べてまとめてみよう。

夫差 越に降伏しようとしたが、条件とした王の帰国を句践が認めなかったために自殺した。

伯嚭 越が呉を滅ぼしたとき、越王句践に忠臣の見本として処刑され晒し首にされた。

句践 越の都を琅琊に遷し、諸侯を会盟して中原の覇者となった。

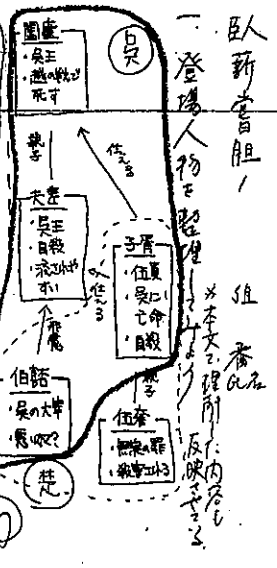
范蠡・種 范蠡は句践の元を去り、陶朱公として巨万の富。種は句践に自殺させられた。

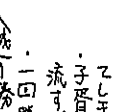
臥薪嘗胆1

組　番　名前

一、登場人物を整理してみよう

※本文で理解した内容も反映させる





臥薪嘗胆2

組　番　名前

一、呉の敗因、越の勝因についてまとめよう。

〈呉の敗因〉
- 同の敵王の二十六年に、夫差が越を敗った際、伯嚭により、越王の句践たちを生きさせたこと。
- 伯嚭が夫差に、「子胥が夫差の恨んでいる」という嘘を流した。
- 夫差が子胥に屠鏥を与え、自害を命じた。
- ①油断していた。伯嚭が悪いやつ!! 漫心 夫差が滅ぼされやすい、甘い!! 臣下を見抜く目がない
- 夫差が越を敗った際、服従を願い出た。
- 伯嚭に賄賂を渡した。
- 国の政治は種に任せ、范蠡と共に兵を整えた。
- 員を攻撃する計画に専念。
- 十年民を養い、財力を蓄え、十年間に教育と有能な臣下に恵まれている。
- ②句践が危入りに準備&努力を続けている。

臥薪嘗胆2

組　番　名前

一、呉の敗因、越の勝因についてまとめよう。

〈呉の敗因〉油断、漫心、伯嚭寵愛、夫差（流されやすい）
- 復讐心が原動力であったこと。（恨みしかない）
- 内部に賄賂を受けるような汚れた人間がいたこと。→夫差に許された。
- 味方同士で仲違いがあったこと。また、その結果国の中心を任すような人が自殺することになってしまったこと。
- 子胥の進言（越に備えた方がいい）を夫差が聞き流す。
- 一回勝ったことで、警戒心が薄れた。

〈越の勝因〉
- 「臥薪」兵
- 二十年かけて計画的に、綿密な準備をしていたこと。
- 国の政治は全て種にまかせて、句践は軍備に専念する、というように、役割分担ができていること。
- 敗れた夫差の予解の申し入れを受け入れなかったこと。（范蠡）
- 賄賂を適当な人に贈って、命乞いをしたこと。